

令和4年度普及活動アルバム

上伊那農業農村支援センター

令和4年度は、新たな重点課題として「水田農業経営体の複合化、新品種・新品目導入による活性化」に取り組みました。土地利用型作物としての麦類や大豆の安定生産、品質向上に向けた支援のほか、高収益作物として、ゴマの新品種への移行に向けた支援や加工に適したサツマイモの栽培方法などについても取り組みました。

一般活動では、各品目の課題解決活動はもとより、新規就農実践塾等による若手農業者への就農支援、環境にやさしい農業の技術指導やスマート農業の普及などをねらいとした活動を行いました。

農業者・関係機関のご協力に感謝し、成果の一部をここに御紹介します。



【5月】 自動運転田植機実演会の開催

スマート農業機械の開発が行われ、普及が進みつつあります。

水稻栽培では、直進アシスト田植機が大規模経営体を中心に導入されていますが、生産者の関心が高く、さらなる省力化が期待できる自動運転田植機（無人）の実演会を駒ヶ根市で開催しました。



【6月】 二条大麦「小春二条」の安定生産支援

駒ヶ根市と宮田村では、地元産二条大麦を使って地ビールやウイスキーを醸造するプロジェクトを立ち上げています。

生産者を対象とした栽培講習会の開催のほか、生育調査結果に基づく栽培管理の情報提供や管外の先進農家の視察（写真）を行いました。



**【6月】
「農業担い手育成懇談会」
の開催**

農業経営者協会上伊那支部、上伊那農業高校ほか関係機関から 36 名が出席して開催されました。

管内の研修生受入れ実績のある法人を視察した後、懇談会では就農相談から先進農家での体験研修、就農後の経営支援まで幅広く意見交換を行い、情報共有が図られました。



**【7月】
環境にやさしい水稲栽培への支援**

信州の環境にやさしい農産物認証に取り組む水稲生産者団体に対し、栽培技術の習得や課題解決に向けた支援を行っています。

現地での勉強会では、雑草防除等の栽培管理について会員相互の圃場を巡回して知見を深め、技術のレベルアップを図りました。



**【7月】
経営発展にむけた中核的経営体への支援**

関係機関と連携して担い手の経営発展に向けた支援を行っています。

個別課題の中には専門知識が必要なものがあり、法人化、労務管理、経営継承、経営改善などについて、専門家派遣制度も利用して課題解決への助言を行いました。(写真は、集落営農法人の組合員に向けた勉強会)



【9月】

加工に適したサツマイモ栽培法の検討

飯島町では転作田での高収益作物の一つとしてサツマイモを選定しています。

町内向けの栽培指針を作成するため、調査や試験を行っています。

本年は、焼き芋に適した規格に揃えるための栽培試験を行いました。



【9月】(通年)

新規就農実践塾の開催

新規就農者向けに「新規就農実践塾」を開設し、農業に関する基礎知識・技術の習得を図っています。

基礎コースのほかぶどう・野菜の専門コースを設けました。各コース10名前後が受講し、技術習得のほか講座を通じた仲間づくりも進みました。(写真は9月の野菜講座)



【9月】

ごまの収穫調査

駒ヶ根市は「信州ごまプロジェクト」による6次産業化を推進しています。令和4年度から転作田での作付けも推進することから、作業改善や品種転換などについて重点的に取り組みました。

開花後の摘心による収量、品質安定の効果確認のほか、新品種「信州駒黒」への転換に向けて採種にも取り組み始めました。



【1月】

青年農業者発表会「アグリフォーラム」の開催

青年農業者や新規就農者の個々の農業経営の課題解決の取り組みを支援しています。

青年農業者の交流とこの一年のプロジェクト成果や意見の発表の場として「アグリフォーラム」を開催しました。



【3月】

大豆の安定多収・品質向上への取り組み

上伊那の大豆は地元需要が高いものの、連作ほ場を主に雑草害や虫害による減収や品質低下が問題となっています。

本年は、宮田村を中心に雑草防除試験などに取り組み、大豆生産振興検討会で成果を発表し、関係者で意見交換することにより、大豆生産振興の機運が高まりました。



【3月】

「果樹せん定枝炭化講習会」の開催

温室効果ガスの二酸化炭素の排出を抑える農業分野での取り組みを始めています。

果樹のせん定枝を炭化し、土壌に還元する方法について理解促進と普及を図るための講習会を箕輪町で開催しました。

今後は、炭化物を土壌に施用したときの影響について、調査を行う予定です。